



大分県で約 40 年ぶりに再発見された絶滅危惧種オオルリシジミはどこから来たのか

オオルリシジミは、日本では現在、本州と九州の一部地域でのみ見られる希少な蝶です。大分県では 1970 年代からオオルリシジミの採集記録が無く、絶滅したと考えられていましたが、本種は近年、竹田市で再発見され、2015 年には由布市でも記録されました。

九州大学大学院比較社会文化研究院の阿部芳久教授、伊藤勇人氏らの研究グループは、大分県産の本種がどこから来たものか解明するため、竹田市、由布市、熊本県、本州（長野県と新潟県）、韓国の各個体群のミトコンドリアの DNA 塩基配列の一部を比較しました。その結果、両市の個体群とも本州、韓国由来ではないことが明らかになりました。竹田市で再発見された個体群は熊本県産の個体群の一部と DNA 塩基配列は同じでしたが、飛来してきたものか、人為的に放蝶されたものかは断定できません。一方、由布市の個体群は土着の可能性もありますが、熊本県の個体群の放蝶に由来する可能性も否定できません。

本研究成果は 2016 年 7 月 12 日に「Entomological Science」のオンライン版に発表されました。



食草のクララの上で交尾中のオオルリシジミ（2014 年 5 月 10 日に大分県由布市内で阿部芳久撮影）



オオルリシジミの雌成虫（2015 年 5 月 8 日に大分県由布市内で阿部芳久撮影）

研究者からひとこと：

わが国で絶滅の危機にあるオオルリシジミが近年、大分県内で再発見され、新たな産地も見つかりました。新たに発見された産地の蝶が九州由来のものだとわかりましたので、熊本県や東海大学の取組を参考にしながら保全対策を進めていきたいと思えます。

【お問い合わせ】

九州大学大学院比較社会文化研究院
教授 阿部 芳久（あべ よしひさ）
電話：092-802-5648
Mail：y_abe@scs.kyushu-u.ac.jp

東京大学総合研究博物館
助教 矢後 勝也（やご まさや）
電話：03-5841-8455
Mail：myago@um.u-tokyo.ac.jp

農業・食品産業技術総合研究機構
西日本農業研究センター 主任研究員
（広島大学生物圏科学科 客員教授併任）
三浦 一芸（みうら かずき）
電話：084-923-4100
Mail：miurak@affrc.go.jp

東海大学農学部
教授 村田 浩平（むらた こうへい）
電話：096-386-2766
Mail：kmurata@agri.u-tokai.ac.jp